

# 平成28年度 第2回 総会

◇日 時：平成28年6月20日（月）

◇場 所：上伊那教育会館講堂

## 《 次 第 》

- 1 開会
- 2 上伊那教育会の歌『仰望の日』
- 3 会長挨拶
- 4 信濃教育会常任委員会報告
- 5 議事  
(1) 第1号議案「平成27年度上伊那教育会事業報告承認」に関する件  
(2) 第2号議案「平成27年度上伊那教育会決算報告承認」に関する件
- 6 協議
- 7 諸連絡
- 8 閉会



## 「出逢う かかわる つなぐ」

小林 克彦 上伊那教育会長 挨拶（抜粋）

土曜日には少年の塔の清掃作業がありまして、代議委員の皆様にはご参加いただきましたこと、心からお礼申し上げます。

去る5月28日の上伊那教育会総研修会「仰望の日」では、一般参加者を加えて1036名の会員が集い、つつがなく会を終えることができました。阿部知之先生の会員発表や木下晴弘さんのご講演は、日々取り組んでいる学校現場の職員に大きな示唆をいただける内容であったと思います。合奏団の発表も素晴らしい歌声でした。会を盛会に終えるためにご尽力いただいた代議委員の皆様をはじめ、仰望の日にかかわっていただいた皆様に心から感謝したいと思います。

職能研修事業の中の三大研修も、充実した活動が始まっております。どの研修も、若い先生方が求める心を持って積極的に参加していただいているという、うれしい報告もいただいております。これもまた、充実させていきたいなと思います。

さて、本年度のテーマは「出逢う、かかわる、つなぐ、主体的に学び合い続ける魅力ある教育会の創生」としております。公益社団法人として5年目の節目を迎えた今、会員が仲間と出逢い、かかわり合い、この主体的な学びをつないでいくと言うこと、そして、そのために会員にとって魅力ある教育会に向けて刷新をし、未来に継承し、そしてその思いをつないでいく教育会を創生すること、これが必要だと考えています。来年度及びこれからの教育会を見据えて、上伊那の先生方同士が出逢い、関わり、学びをつないでいくために、また、上伊那が大切にしてきた「共に育つ」という教育文化を未来に残すために、本日は意見交換の場を設けさせていただいております。忌憚のないご意見を出していただきながら、主体的に学び合い続ける魅力ある教育会をこれからも創生していくためにはどうしたらいいのか、そして、どういうところを私たちは、教育会を刷新していけばいいのかという観点から、是非ご意見をいただければ幸いです。魅力ある教育会を本年度作っていきたくて考えています。

## 三大研修（哲学研修・文学研修・授業研修） など教育会事業についての意見交換



私だけでなく、日々事業作りや学級事務・生徒指導・保護者対応、本当に目まぐるしく一日が過ぎていく。本当に忙しいと感じています。でも、やはりそんなときだからこそ、私たちは自分を見つめ返すときが大事だろうと、最近特に思います。

昨年度、本校の青年教師一人が、上伊那教育会の三大研修である哲学研修に参加させていただきました。正直言えば最初は、代議員である私にやってみないかと言われて参加した。でも、参加していくうちにその魅力にはまり、哲学研修が終わった後、彼は私にこう言いました。「自分も研修内容を繰り返し学んでいく中で、自分を見つめ返す機会となった。そして、生徒との関わりなども、自分で変わった気がする。」彼は、今年も哲学研修に積極的に参加させていただいています。おそらく、研修内容だけでなく、哲学研修を共に学んでいた先生方からも、大きな刺激を受けたらうと思います。先ほど、会長先生がおっしゃっている共に学ぶ共につないでいくそんな姿を本校の青年教師が身をもって感じている。私は、その先生を見て、私も見つめ直さないといけないなと本当に思います。

私も昨年度から本年度、授業研修委員会に参加させていただいています。昨年度は、飯島中の青年教師長山先生の実践を通して学ばせていただきましたが、詳細な生徒との関わりや記録、そして自ら生徒との関わりを開こうとする心、そんな姿を目の当たりにして自分は果たして生徒に心を開いているのか、日々の授業はどうだと見つめ直しました。上伊那教育会には自己研鑽する、また自己を高める、そういう研修の場がたくさんあります。忙しい今だからこそ、みんなでそれを大事にして、つないでいけるようにしていきたいと思います。私もそのつないでいく一人として、かかわっていきたいと思っています。

教科等教育研究会における自主研修について発言させていただきたいと思います。私の所属する上伊那保健体育教育研究会は、現在会員数が100名を超えています。他地区と比べても多い会員数です。上伊那は教育会の組織の中に教科等教育研究会がしっかりと位置づけられているからではないかと思えます。

5月の仰望の日の午後にはそれぞれの研究会の総会が開けるよう日程の工夫がなされています。こういった教育会の支えのおかげで、上伊那に来たらできるだけ何かの研究会に所属して、研修を深めようといったよき雰囲気を作り出されているのではないかと感じています。社会科の授業作り研修会があったり情報誌であったり、理科の沢木先生の講演会も楽しそうだと思って見ていますし、先週あったクレヨン研修会なども出てみたいなど思ったりしています。国語の文学の教材の読み取りについての冊子を見させていただいたら、私ももっと深く読めるのではないかと思ったりして、それぞれの研究会で工夫がなされているなど感じています。これからも教育会の温かい支えをいただきながら、アンテナを高く張って各研究会の情報を交換し合いながら、上伊那の教科等研究会をますます魅力あるものにしていけたらと思っています。

郷土研究事業にかかわるということで、お話をさせていただきたいと思います。私、郷土研究の中の歴史委員会の担当をさせていただいております。併せて専門委員会の方の歴史班ということで、色々なところで歴史にかかわっています。大久保文書という上伊那地区を代表する古文書があるのですが、それを活字データに起こすことをやっています。なかなか古文書というと、慣れてこないと読みにくい。委員の方々ですが、初めて古文書に触れるとか見たこともないというところで、先輩の先生方に教えていただいて、我々で読み合いながら1年間活動を進めるようなことをやっています。そうして何年かたっていくと、それが最初読めなかった字が読めるようになります。何となく読めるようになってくる。読めるようになったうれしさ、そんなことを聞くときによかったと思うんです。

読んだり整理したりしたものを、市民や郡民の皆さんに紹介していくということがありますが、互いのつながり、教育会の資料をより広く伝えていくことも大事な事業だと思うので、是非つづけていきたいし、若い先生方に入ってもらいながらつながっていったらいいなと思っています。

## 矢澤 淳 上伊那教育会副会長 閉会の挨拶 (抜粋)

上伊那教育会の諸事業に対して意見を出していただき、ありがとうございました。以前聞いたことですが、組織がダメになるのは、いいことばかり言っているとダメになるという話を聞いたことがあります。今日出していただいた先生がいけないとかそういう話ではありません。この場では言いつづかったこともあるかなと思っています。是非、正副会長、常任委員15名います。事務局の先生方もいます。「もっとこうした方がいい。ここのところ、ちょっと違うのではないか。こういうことも考えてほしい。」ということがあったら、遠慮なく出していただいて、本当にみんなの上伊那教育会、自分たちの上伊那教育会という教育会にしていきたいと思っています。今年30名の会員が増えました。増えたことで喜んでいてもしかたありません。入ってくれた先生方に、入ってよかったと言ってもらわなければ、人数だけ増えてもよい教育会にならないのではないかと思います。そんな意味で、この場で言いにくかったことがあれば、遠慮なく申しただければ、教育会としてもそれを還元していきたいと思っています。